

内容確認調査（発掘・測量）の成果報告

瀬戸内町教育委員会 かなえ じょうたろう
鼎 丈太郎

1. 補助事業概要

事業の目的 瀬戸内町内の近代遺跡について、調査（分布調査、内容確認調査、文献史料調査）を行い。瀬戸内町の近代遺跡の実態を明らかにする。また、調査で得られた成果は、遺跡の保護・活用や郷土教育などへ活用する。

- ・2014（H26）～2016（H28）年度 分布調査（206箇所 of 軍事施設跡確認）
※調査成果を整理して、52遺跡（奄美大島側19遺跡、加計呂麻側33遺跡）
- ・2017（H29）～2021（R3）年度 6遺跡について内容確認調査

2. 近代遺跡とは

文化庁 我が国の近代史を理解する上で、欠くことのできない重要な遺跡。

大きくは「政治」「経済」「社会」「文化」「その他」で区分し、遺跡の性格により、さらに11の分野に分けられる。 ※軍事に関する遺跡は「政治」の分野に入る。

- ・対象：幕末・開国頃からアジア・太平洋戦争（第2次世界大戦）終結頃まで
- ・大正期の軍事関係遺跡の数：8件。要塞は、2件（奄美大島要塞跡含む）。

瀬戸内町 久慈白糖工場跡など、幕末・明治初期に建設された遺跡が残っている。瀬戸内町の近代遺跡は「軍事」に関する施設跡が多く残っていることが分かったため、現時点では、町内の軍事遺跡（軍事施設跡）を指して「近代遺跡」としている。

- ・なぜ調査してこなかったのか？：埋蔵文化財保護行政では、中世より古い時代を主に調査・研究するため。埋蔵文化財として取り扱うには新しすぎたため。

3. 調査方法

- ・分布調査：文献・伝承等で遺跡が存在しそうな地区を中心に踏査する。
- ・発掘調査：確認できた遺跡の構造等を解明するために試掘・発掘調査を行う。
- ・測量調査：地形の測量（遺跡の立地）と構造物の計測・製図を行う。
- ・整理作業：調査成果（遺物・データ等）を活用できるように、資料を整理する。
- ・比較検討：他施設や他地域の施設との比較を行い、遺跡の特徴等を抽出する。

最新技術 瀬戸内町の近代遺跡は、普段人が訪れない山奥に多いため、ハブや崖など危険が伴う。下記の調査方法では、近代遺跡を安全に調査することができる。

- ・ドローン測量：上空からレーダーで、座標や標高を計測、空中写真撮影も可能。
- ・地上レーダー：設置箇所からレーダーで360度計測、壕内の調査も可能。
- ・地中レーダー：掘削を行わなくても地下の状況を把握可能。

4. 内容確認調査成果

○佐世保海軍軍需部大島支庫跡（久慈）

佐世保海軍軍需部大島支庫跡は、大島海峡の奄美大島側ほぼ中央に位置し、大島海峡の中でも特に良港として知られている、久慈湾に立地している。

水源地での取水 → 濾過 → 貯水 → 艦船 への給水という、水利システムを確認した。島内産ではない2種類の規格の赤レンガや複数の刻印を確認することができた。赤レンガの産地同定が可能となると、運搬・流通ルートが解明できる可能性がある。

佐世保海軍軍需部大島支庫は、台湾航路の重要性の高まりや戦艦による戦闘が主流となった明治期の需品運用状況を示す重要な遺跡である。

○西古見砲台跡（西古見）※国史跡指定（答申）

西古見砲台跡は、奄美大島の西南端に位置し、尾根筋から山裾、岬一带に至る広範囲に分布する。

今回の調査により西古見砲台を構成する施設の把握が行われたことで、大正期の砲撃システムについて検証することができたと言える。

奄美大島要塞の防備のために配置された実久砲台や安脚場砲台などとの比較も進めていく。比較も進めていきたい。

○安脚場砲台跡（安脚場）※国史跡指定（答申）

安脚場砲台跡は加計呂麻島東端に位置し、尾根筋から山裾、岬一带に至る広範囲に分布する。一部の施設が公園化され公開されているが、未管理の施設も存在する。

安脚場砲台は、旧陸軍により奄美大島要塞の防衛のために築かれた砲台である。

同様の目的で築かれた西古見砲台とは、立地や構築方法にも違いがあることが明らかとなった。また、潜水艦対策として、旧海軍が防備衛所を設置している。

○手安弾薬本庫跡（手安）※国史跡指定（答申）

手安弾薬本庫跡は、大島海峡ほぼ中央の奄美大島側に位置する。

手安弾薬本庫は、奄美大島要塞の弾薬本庫であり、大島海峡に築かれた各砲台への弾薬供給や火薬等の保管を行う施設として構築された。手安弾薬本庫や奄美大島要塞司令部、海峡の東西入口に配備された砲台は、連動して運用され、大島海峡の地形を最大限に活かした防御システムを構築していた。

○第18震洋隊基地跡（呑之浦）

第18震洋隊基地跡は、大島海峡に3か所配備された震洋隊のうちのひとつである。

大島海峡のほぼ中央、加計呂麻島側に位置する呑之浦湾の両岸に配備された。調査において、震洋艇格納壕の構造について確認することができた。

震洋艇格納壕の構築方法や規格について確認することができ、太平洋戦争末期の特攻攻撃隊の具体像に迫ることができたのは重要な成果である。

○大島防備隊本部跡（瀬相）

大島防備隊本部跡は、大島海峡のほぼ中央、加計呂麻島に位置し、汀線から山腹までの広範囲に分布している。現在、一部の施設が慰霊碑公園として公開されているが、大半の土地が湿地であり、未管理の施設が存在する。

大島防備隊本部跡の調査において、太平洋戦争に突入する時期の旧海軍基地の様相を確認することができた。大島防備隊の本部であることから、戦闘指揮関係だけでなく、物資保管・補給や修繕など多くの施設を確認することができた。

ただし、今後、より詳細な調査を行な調査が必要である。

5. 調査のその後

- ・遺構内環境調査（データロガー）遺構内環境変化観測
- ・3Dスキャンによる遺構図作成 遺構の変化確認、VR等安全な公開
- ・X線による顔料調査 非破壊による分析、修復等への活用
- ・水中遺跡（飛行機など）
- ・分布調査で判明している、保存状態等の良い遺跡の調査
（実久砲台跡、海軍給水ダム関連施設跡、皆津崎望楼跡、与路砲台跡など）

調査風景 1

○佐世保海軍軍需部大島支庫跡（久慈）



空中写真1（久慈湾）艦隊泊地内定湾



空中写真2（水溜跡）約50屯×6槽

○西古見砲台跡（西古見）※国史跡指定（答申）



第2砲座跡（発掘調査風景）



第1砲側庫跡（上部掘削：白砂確認）

○安脚場砲台跡（安脚場）※国史跡指定（答申）



第1砲側庫跡（発掘調査風景）



不明施設（旧海軍機銃跡の可能性有）

調査風景 2

○手安弾薬本庫跡（手安）※国史跡指定（答申）



第2弾薬庫跡通路（コンクリートブロック巻き）



第3弾薬庫跡（剥離及びアスファルトフェルト）

○第18震洋隊基地跡（呑之浦）



格納壕跡内部（素掘り・坑木跡）



格納壕跡（滑台、柱穴確認状況）

○大島防備隊本部跡（瀬相）



土塁跡・弾薬庫跡（ドック周辺）



第1防空壕跡・コンクリート柵